

## ◁ 転生 ▷

前号は、我々、人類がどういう存在であり、なぜ、ここにいるのかについてでした。それは、創造のプログラムの中で、動物界と完全なる人との間にいる我々が、自分の意志を持って進化するのか、魂の故郷をめざすのか、あるいは退化するのか、という現実についてでした。

宇宙はすべてのことが数学的に、法則に基づいて成り立ち、万物がそのように動いています。そして人類は、もう4億5千万年という長い歴史を重ねて来ました。

創造の光が放たれ、長い宇宙の旅の後、地球にたどりつき、さらに長い長い時の間、鉱物として、植物として、そして動物として、進化を重ねて、今、人間としての体を与えられ、ここにいます。人間としての進化の機会を与えられてから、もう想像を絶する時が流れています。人類はどのような歴史を営み、地球自身はどのように生きてきたのでしょうか。それらについて、これからも求めていきたいと思えます。

我々は、本当の内的な進化をするために、この人生を与えられ生きていて書いてきました。でも、それはたった一度の人生で実現できることではありません。人間には、宇宙の法則によって、一定の時間が与えられています。それが転生（生まれ変わり）の法則です。世の中には、そんな事は有り得ないと信じない人もあります。皆さんはどう思われますか？次のような例を、どのように感じられるのでしょうか。約1400年前、6世紀のヨーロッパで、コンスタンティノーブル公の会議にカトリックの司教達が集まりました。彼らは、そこで転生の教義を投票によって、公式に否認しました。しかし、現在は聖書についても、キリスト教の原典が正しく伝えられていない多くの点や、字句どおりだけでない深い象徴的な意味をこめた表現も、明らかにされてきています。

転生と言えば、アメリカのエドガー・ケーシーという人物を忘れるわけにはいきません。彼は、個人の前世と今世の関係、転生とカルマ（業）を見ることによって人々の治療を献身的に行った人です。また、「ピタゴラスの定理」で、あまりに有名なピタゴラスも、自分の過去、何回かの前世の記憶を、自分自身で詳しく述べています。また、日本で、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の報告している例は、カツゴロウという一人の少年の前世の記憶を、実際に確認・証明できた

ものでした。インドにも、有名なシャンティ・デビという女性の、客観的な裏づけのある例があります。そして、転生の記憶、実感を持つ名もない多くの人々が、世界のあちこちに存在しています。専門的な研究においても、肯定する者、疑問を持つ者、両者が実験、調査し続け、大変多くの実例が存在しています。「内的世界の探究」という本を書いたジェーン・ダラップという女性は、LSDを注射し、アメーバから人間までの全進化の過程を再体験しました。物理的な衝撃さえも感じながら、すべての小さな生命単位が、生存をかけて生き抜くさまを経験した彼女はこう言っています。「肉体的死の後にも生命は常にある。我々の生命が生まれ変わり出で変わりしていることを、我々は潜在的に深い意識のレベルで悟っていながら、顕在的には忘れてしまっている」と。

死海写本、チベットの死者の書、エジプトの死者の書、ゾハール（光輝の書）と、我々の誤った観念を改めさせ、驚くべき魂の神秘、死の真実を伝える文献が存在しています。それらには、魂の永遠、真の生と死、そして正しい死の技術

さえ書かれています。そしてまた、我々の知る多くの人々も転生を認めていました。プラトン、ピタゴラス、ショーペンハウアー、エマーソン、ウォルト・ホイットマン、エディソン、ヘンリー・フォード、ジョン・マンズフィールド、そして、18世紀最大の科学者であ

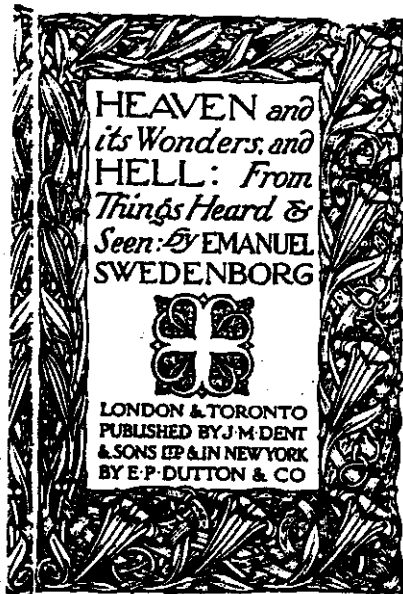


り哲学者でもあるスウェデンボルグは、実体験した死後の世界について、大変多くの驚嘆すべき著書を残しています。

ノーシスの知識は、我々の内に潜在しているもの、創造や転生の記憶も超常機能も、すべて、薬や催眠に頼ることなく自分自身の努力によって、自分を開発し育てていく具体的な方法をお伝えします。

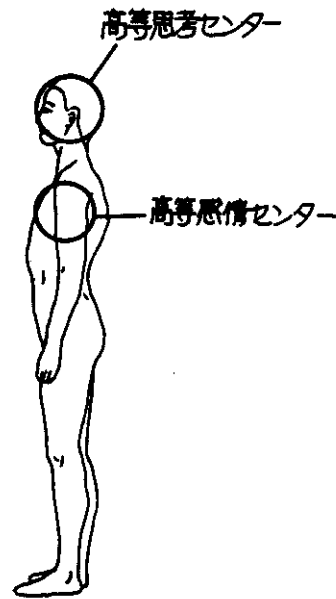
### 生と死

生命が誕生するには、1つの精子と1つの卵子が、まず必要です。人間は精子からメンタルな（精神的な）部分を、卵子から物質的な（肉体的な）部分を受けつぎ、もらいます。そして、精子と卵子が受精するとすぐの母親の息、吸う息と共に魂が宿ります。これが、すべてに生命を与える聖なる氣息です。ですから、子どもの呼吸のリズムというものは、その時の母親の呼吸の状態の影響を受けま



↑スウェデンボルグ（右上）が、自己の体験をもとにした『霊界書』の表紙。

す。胎児は、母親の胎内にあって、母親を通して肉体的にも内的にも、すべてを感じとり育ちまされるわけです。少し前までは、胎児はなににもわからない、誕生してもすべて未熟で、徐々に発達していくと、言われていましたが、最近では、胎児は実によく「見ている」と言われ出しました。それは本当です。胎児は良くも悪くも母親を通して影響を受け、母親にいろいろの訴えもします。しかし、その交信、対話は普通、ほとんど行われませんから、胎内で必要としたもの、育てられるべきことも、肉体の誕生後に育てていかなければならないわけです。たとえば指しゃぶりについて、これは本当はなにをしているのだと思われませんか。指しゃぶりはたいてい、親指の爪の方ではなく、腹の方を上の前歯の奥の所にあてて、しゃぶっています。この上あごの部分に刺激しています。この部分は胸腺と関連しています。胸腺には高等感情センターというものがああります。人間には、頭部に高等思考（メンタル）センターと、この高等感情センターと、2つの高等センターがあり、これらはエゴに影響されることはありません。これらは、人間の崇高な知性や洗練された感性、深い愛の感情の働きを受け持つ所です。胎内にいる時に育てられなかったために、本能的に指しゃぶりによって、開発しているわけです。



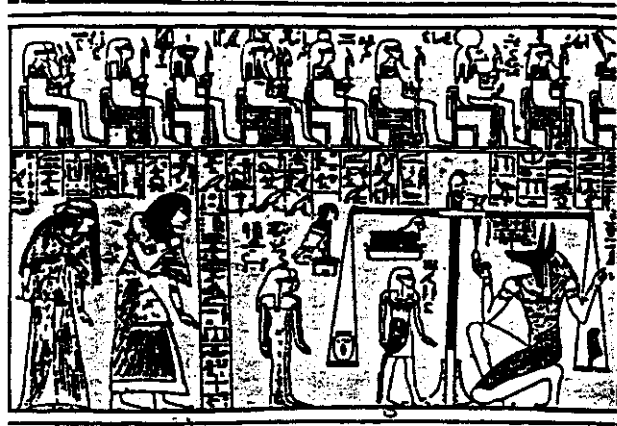
2つの高等センター

肉体としての生命は、出産という誕生の時に初めて吸う息とともに始まります。毎日毎日成長し、年令を重ねます。そして毎晩、夢を見続け、死への準備もしていきます。睡眠の間は、我々の生命エーテルだけが体内に残り、ほかの内的な体はすべて外へ出ます。夢と死の違いは、我々の肉体と内的な体、アストラル体とをつなぐ糸が切れているかどうかです。この糸は、ヘソの緒のようであり、昔からチベットでも言われていて、銀の糸と呼ばれています。この銀の糸はどこまでも伸び、そしてまた元に戻るということを毎晩くり返しています。この糸についても、自分でそれを見たという人々の例をあげることができます。アメリカの精神物理学、超心理学、心靈科学、電子生体工学、コンピュータ情報科学などの研究者たちによって、実験、調査された客観的な実例があります。

我々の魂は、肉体の最後の吐く息と共に体外へ出ます。そして、この銀の糸は切られます。これが肉体の死です。そうすると、我々の肉体は三次元に残り、物質的な変化を続け、最終的には分解され土に戻ります。我々の霊氣的なエーテル

成分は、死後しばらくは肉体のまわりに残っています。パーソナリティ（人格）も同様です。そして、肉体同様に、自然に消え果てます。しかし、パーソナリティが大変強ければ、例えば、非常に執着が強ければ、長くそこに存在することになります。それが俗に幽霊と呼ばれるものです。それは、死人の魂でもなんでもない、ぬけがらのようなものです。

魂は、死後五次元に至ります。そこで、3日半の自己審判に入ります。自己審判とは、それまでの自分の人生のすべてをかり返ってみることです。それは、実行した行為だけでなく、心の中に浮かべた思いも、また自覚もなく抱いた心理的な感情も、すべてのことを見せられるのです。そして、すべての善悪の量が計



★「エジプトの死者の書」に描かれている審判の場面

られ、自分の行くべき所がおのずと決まってくるということになります。それが進化か退化ということにつながって行きます。これが日本では閻魔として、エジプトではアヌ・ヴィスとして、またチベットではヤマ・ラージャ（ダルマ・ラージャ）として知られ、また多くの宗教の天国、地獄の話として残されています。天国と地獄については後に説明します。

### 転生の法則

我々は、というよりは「真実の我」である魂は、何度も肉体を与えられ、人生という進化のためのチャンスを与えられています。それはちょうど、毎回違う役を与えられ舞台に立つようなものです。ですから、人生のたびに魂は違う肉体で、違う人物として運命を生きることになります。人間は、肉体、霊、魂を持っていると何度も書いてきましたが、そのほかに生まれてくる時にエゴと運命をも持って生まれて来ます。そして自由を与えられています。我々はすべて、宇宙全体のプログラム、法則によって導かれると同時に、個々のプログラムによって生きています。それらはすべて、数学的な法則によって成り立ち、我々自身がそのプログラムを創って来たと言うこともできます。今の人生が、次の人生の在り方を方向づけ、形作っていつているのですから。

このように我々は、108回の人生を1サイクルとして、それを3000サイクル、合計324000回の人生を与えられています。これが転生の法則です。108という数字は、皆さんになにを連想させるでしょうか。これは除夜の鐘の教であり、仏教で言う煩惱の教であり、そして正式の教珠の教も108です。また除夜の鐘は、一人一人交代で打りますが、これは魂は毎回違う肉体を持つ、ということ象徴しています。日本には、**経巻**とか、**方陣**というものがあります。これは中国でもヨ

一ロツバでも同じようなものがあります。それらの中で、教はすべて単純に足していきま。教というものも、多くのシンボル、象徴と同じくいろいろの深い意味をこめているものです。108という教は $1 + 0 + 8 = 9$ になります。この9という教の持つ意味は、完全なる人ということ。三位一体を3回( $3 + 3 + 3 = 9$ )重ねること。この108回という1サイクルが終わるたびに審判され、進化していれば道を進み、もし退化していれば後退します。そして、すべてのサイクルを終え、転生の限界に来た時、最後の審判があります。それまでに、エゴをどれだけ無くしているか、どれだけ心理的な汚染を除外し進化したのか、

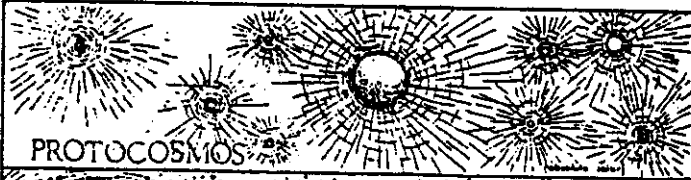


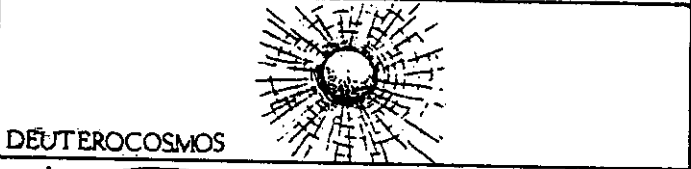





閻魔

献身したのか、計られます。進化していれば上昇し、そうでなければ洗淨の場に行きます。我々が生きてるように、地球も生きています。自然界のすべてのものは、惑星も、動物、植物、単細胞の生きもの、鉱物、あらゆるものが生きています。そして、存在するものすべては、必ず一定の役割、働きを持っています。あらゆるものが栄養を与えあい、吸収しあい、影響を与えあいながらバランスを保ちつつ、今ここに存在しています。ハエは食物などに止まり、食物を汚染しているように見えます。しかし、ハエは空気中のネガティブなエネルギー、腐敗した電気エネルギーを、自分の栄養として吸収し、結果的に空気中の洗淨に1つの役割を果たしています。カは伝染病の媒介ともなっていますが、カには血液中の酸を吸収する働きがあります。肉体的な疲労、食物の乱れ、お酒などによって生じる血液中の酸を、カは自分のご飯としています。またカは、人間のオーラの光に向かって来ます。このように、すべてのものは理由があり、必要があって創造され、すべてのバランスの中で存在し続けることができるのです。調和と秩序あるバランスというものが重要です。けれども、人類の歴史の中で、どれほどおびただしい生命が殺され絶滅していったのでしょうか。そして今、現在、なおも絶滅に向かって突き進みつつあります。もう、これ以上先へ行けないほどの積弊を重ねて来ています。現在は、そのように大変特別な時代に来ています。そのために、我々人類の進化を促し未来へ導くための神聖な知識が公にされているのです。

我々の魂がネガティブな闇は受けつけないように、地球自身も人類の心理的な汚染されたエネルギーなど受けつけません。地球にはその汚染されたエネルギーを洗浄する働きがあり、そのような場所もあります。それが俗に地獄と言われてます。我々が進化せず、すべての人生の中で汚染を積み重ね増大させるなら、進化の道を逆戻りし、強制的に汚染物質を洗浄する場所へ行くこととなります。

コスモス  
7つの宇宙

"LOS SIETE COSMOS"		コスモス	法則	音
 <p>PROTOCOSMOS</p>	プロトコスモス (太陽の絶対)	1	ド	
 <p>AYOCOSMOS</p>	アヨコスモス (フルメント着天)	3	シ	
 <p>MACROCOSMOS</p>	マクロコスモス (銀河系宇宙)	6	ラ	
 <p>DEUTEROCOSMOS</p>	デオテロコスモス (太陽)	12	ソ	
 <p>MESOCOSMOS</p>	メソコスモス (太陽系惑星)	24	ファ	
 <p>MICROCOSMOS</p>	ミクロコスモス (人間)	48	ミ	
 <p>TRITOCOSMOS</p>	トゥリトコスモス (地獄)	96	レ	
				ド

そして洗淨され、害のない状態になって再び生まれて来ます。けれども人間として与えられた転生の時間を、進化のために生かせなければ、再び人間として生まれるのではなく、宇宙の中の純粋なエネルギーとして、例えば1つの原子や水、空気、植物の精などとして永遠に存在し続けます。魂は永遠です。しかし、進化のためには必ず、人間としての体を通らなければ、次の段階、進化の上の段階へ行くことはできません。ですから、洗淨された後に人間以外の体を与えられ、永遠に平安に存在したとしても高次に至るための進化のチャンスは、もう与えられることはありません。肉体は、進化のために必要なすべての変換を成す創造のへやだと言って来ましたが、肉体がある間だけ与えられている、重要な可能性を考えてみてください。どこにしようと、どのような状況にあらうと、肉体を持って生きている間はすべての可能性が存在しています。自殺は、そのかけがえのないチャンスを、自らの手で投げ捨てることにほかなりません。今、こうしている時にも、世界中で自殺が起っています。戦争が行われています。我々は知らなければなりません。そして、伝えられなければなりません。我々が本当の事を知り、自分自身で判断していくために。

汚染されたエネルギー、エゴのエネルギーというものは大変重く、固く凝り固まっています。ですから退化した霊、魂の宿っている鉱物から、それらのエネルギーをもし取り去ってしまうなら、鉱物は大変柔らかくなってしまふと言われていいます。また、性的な禰癩を続けると、動物界へ退化してしまいます。最近の新生児で、尾魁骨から先に、さらに骨をつけて生まれて来る子が増えています。先祖返りなどと言いますが、それはもう、すでに退化の過程を進み、肉体にも結果が表われ出しているということです。超視覚があれば、普通の肉体を持つ人物が、すでに動物的な鱗やしっぽを持っているのを見ることもできます。これは、差別や善悪のことを言っているではありません。ありのままの現実を冷静に理解するところから、すべてが始まると思うからです。我々は普通、自分の体はこの目で見てるように、しっかりした骨格と筋肉や脂肪につつまれた固体、物体だと信じて疑いません。しかし、本当は、我々の体は霞のようなもの、風がスーッと通りぬけるようなものです。エネルギーの集合体であって、エネルギーが三次元的に、物質(肉体)の形をとっただけなのです。ですから、すべての病気の元、起源は肉体にあるのではなく、エーテル体から始まるのです。退化も、肉体に表われる前に、エーテル体の段階ですでに始まっている時に、超視覚でそれを見るということになるわけです。物事が法則に基づき、あるが如くにある、という現実を学ばなければならないと思います。

#### **カルマとダルマの法則**

転生に係わる法則に、カルマとダルマの法則というものがあります。これは両方ともサンスクリット、梵語で、カルマとは行為、行動、作用という意味であり、業とも言えます。ダルマとは、法、真理、教法ということ です。善行と言えればわ

かりやすいでしょうか。運動するものは、円を描いて元に戻るという法則があり、これはブーメランの法則とも言われます。1つの運動するもの、そのようなエネルギーは磁石のように、それと同じものを引きつけて戻って来るといことです。ですから、我々がカルマの法に触れる行為をすれば、それはちょうど、人生の借金を作るようなもので、最終的にはさらに多くの借金を呼び集めて、自分の所へ戻ってくるということになります。我々はこのカルマの法則によって、借りを払うべき機会として転生の時を与えられています。ですから、我々が行う善や献身は、さらに深い善や愛を引きよせ、自分に与えられます。これがダルマの法則です。カルマが10倍、何百倍になるならば、ダルマは何千、何万倍となって自分に返って来ます。このように、多くの法則が働いていますが、カルマは決して罰なのではありません。地獄も罰のせいではありません。多くの宗教が罰のように言うのはまちがいです。すべては、我々が進化するために、払うべきもの、必要なもの、学ぶべきものとして与えられているのです。キリスト教でも、播いたとおりに刈りとり、他人になしたことは、そのまま己れの身に帰るだろうと言います。ですから、限られた転生の中で、進化を探求し続け、自己の内部に真の調和、中和を培うためにすべてを生かすことを習わなければならないと思います。宇宙のすべては、磁気的な、数学的な法則によって成り立っています。

我々が、なぜ男、あるいは女であるのか、病気や健康、結婚や子どもの有無、生まれる時代や国、民族、家庭の違い、それらは自分が転生の中で創ってきたことであり、今までの結果にすぎません。そして、払うべきものを払い、与えられるべきものを与えられ、学ぶべきことを学んでいくために、すべては与えられているのです。すべてを通し、バランスを取り進化していくために与えられています。例えば、あまりにも女性的すぎたり、反対に男性的すぎて人間としてのバランスを欠いた時には、次にはそれぞれ反対に男性になり、女性になり、調和を育てるように人生を与えられています。結婚も、愛による引きつけあいと、憎悪による場合があります。お互いに愛を完成させていくために再び巡り逢い、また、憎悪というカルマをなくしていくためにもチャンスを与えられます。子どもに関しても、子どもを持って成すべきことがあれば、子どもを与えられます。親と子ども磁気的なひきつけあいによります。そして、子育てを通してすべきことを終えたなら、その時間は、ほかのことに使うための人生が与えられます。同じ事を何度も繰り返す時間はないからです。

そうすると、なぜこの人生が、この物事や状況が与えられているのかを、本当に理解することが必要になって来ます。それが理解できれば、たとえ、どのようなことに直面しても、無意味に苦しむことはなくなります。同じ苦しみが、全く別のものになるでしょう。理解と感謝と希望を持って苦しみを味わい、学び、のりこえていけることになります。それがわからないために、自分のものでもない肉体を、臓器移植や性転換、中絶、男女生み分け、試験管ベビー、自殺、殺人と



多くの犯罪とカルマを重ねてしまいます。これらは自分だけでなく、生まれてくる子や他人の進化をも遅らせてしまいます。カルマは自分自身が犯します。そしてカルマの償いを払うために、今ここにいます。進化を願うか、願わないか、それはその人の意志によります。思わないもの、願わないものは、決して生まれ育つことはありません。ですから、運命と共に自由を与えられている我々が、自分の意志によってその後の自分の運命を創造しているのです。すべての問題に対する解答は、己れの内にあります。

## ◀ 異次元としての 天国と地獄 ▶

### 高い次元を象徴する天国

我々が、すべての転生の時間を終えた時、だれもが最後の自己審判を受けます。そして、その人が積み重ねて来たままの結果を受けとります。進化すれば、その過程を上昇し、より高い次元に至ります。それを一般的な言葉で天国と言います。そのような、洗練され清められ、高められたエネルギーの場であるといえます。我々の肉体は三次元の世界で生きます。夢の中では、我々のアストラル体は五次元まで上昇できます。肉体の死によって、魂は五次元に行きますが、その後の行く先は、その人の人生の結果によります。五次元より上には、魂の持別の乗りものがないと上昇できません。肉体を持って生きている間に、それを創っておかなければなりません。それは、内的な進化を成しとげることによって可能となります。内的な進化、つまりエゴを根絶することです。それは、我々が毎日毎日、一瞬一瞬、自己を観察し、心理的な汚染をなくしていくことです。そして性エネルギーを変換、再吸収することによって、エゴの成分である砒素イオウ、乾燥水銀を変換し、エゴに勝ち、我々の内的体を、昇華された性エネルギーの黄金で包むということです。その昇華された性エネルギーが唯一、エゴを根絶できるものです。そして黄金の霊体が魂の本当の乗りもの、洋服です。我々の霊、心理を月の影響から



解放させ、太陽の元へ太陽人間として帰る、これが我々の目的です。この人類の持つ目的を、多くの宗教、神話、遺跡が語っています。モーツァルトのオペラ、「魔笛」は、まさに、このことを象徴しています。

宇宙の中で、最初にできたものが水素という元素でした。ですから、物質にはすべて、水素が関与しています。我々の性ホルモンも水素が元になっています。この水素が昇華されることによって、ヘリウムに変換します。この化学的な作用は、原子物理学に属します。公式の化学は、通常の温度下では原子転換は行われなると言います。しかし、自然界の中では、平温の所で自然に原子転換が行われています。それを、ずっと古くから説いていた化学者もいますし、日本では、マクロビオティック（自然食・正食）で知られる桜沢如一が注目し、翻訳もしています。これからは、1つ1つの扉が開かれ、我々の目の前に示されていくでしょう。



太陽を持った女神(インド)。

### 洗滌の場である地獄

地獄と言えは、だれでも罰を受ける所と思うでしょう。でも、すでに書いてきたように、それはまちがいです。多くの宗教が地獄の話をし、人々の恐怖心をかりたてたり、戒めにしますが、それらの行為は結局、信者や人々から搾取することにつながっています。それは正しくありません。自分で排除できなかったものを、洗い流してもらうのです。清めることをせず、冷たく重い、よじんだエネルギーを身につけてしまった自分が、磁石のように、自然に同じエネルギーの所に行くのです。それはただひとつ、我々がどこにいようと、清められ、高められ進化の過程を進んでいくためです。万物がそのように、狂いなく動いています。

高次と低次の図表を説明します。上にも下にも次元がありますが、これはエネルギー的なものです。エゴが強大で多くなればなるほど、闇に近づき、重く冷たいエネルギーであり、エゴが少なく進化すればするほど、光が小え、暖かく軽く安らぎに満ちたエネルギーになります。それらのエネルギーは、単純に上下に積み重なっているわけではありません。すべてのものに二面性、二元性があるとお伝えしたように、すべての惑星にも十ヒーの面があります。それらの影響を、我々も受けています。そして、我々の心理の中にも低い段階があります。我々は、日常的にネガティブなエネルギーを、たとえば怒りやねたみなどを、周囲に発散させたり、またポジティブなエネルギーを、他人からもらったりしています。この

高次層 ↑	各惑星のポジティブ(+)な部分	九 (土星)	栄光 光 黄金の層 (リジョン)	13 12 11 10 9		
		♃ (木星)	個性 (インディヴィジュアリティ)	第8次元		1法則
		♂ (火星)	因果層 (コアレルリジョン)	第7次元		3法則
		☉ (太陽)	メンタル層(電子) エレクトロニック	第6次元		6法則
		♀ (金星)	永遠(分子)	第5次元		12法則
		♁ (水星)	アストラル層(分子) エレメンター	第4次元		24法則
		☾ (月)	細胞層(肉体) (セルラーリジョン)	第3次元		48法則
		☾ (月)	悪意はないがまちがった者、善人であるが進化のための努力をしなかった者、冥府	依次の1段階		96法則
		♁ (水星)	好色、肉欲、ワグバファー	2段階		192法則
		♀ (金星)	大食、官能的快楽、ぜいたく	3段階		288法則
↓ 低次層(欲動層)	各惑星のネガティブ(-)な部分	☉ (太陽)	浪費、けち、欲深、ねたみ	4段階	384法則	
		♂ (火星)	皮肉、怒り、冷淡、傲慢、自意識過剰	5段階	480法則	
		♃ (木星)	異端者、懷疑、狂信、責任回避	6段階	576法則	
		九 (土星)	自然に反する暴力、横暴、マスターベーション、食料浪費、自殺、中絶、暴行、殺人、エコロジープ、放蕩者、どろぼう。	7段階	672法則	
		♁ (水星)	ブラックタントラ、うそつき、いつわりの予言者、花巻、こびつらう、誘惑者、偽善者。(お金をとる)うらない者。	8段階	768法則	
		♃ (木星)	うらぎり行為、魂を金で売る行為	9段階	864法則	

ようなエネルギーの動きは、肉眼では見えませんが、現実起きています。だからこそ、我々は自分自身で、見聞きするもの、受けたり与えたりするものを、意識的に選択し変換する必要があるのです。なるべく悪い考えを持たないよう、また悪影響のあるものを避け、内的に高められるものを求めていくように。

それから図表の中の、法則数というのは、その次元を拘束する法則の数です。三次元は肉体のある次元で、時間、空間に拘束され、食と栄養、生殖、記憶、五感と各12ずつ、48の法則があります。四次元では、時間にも空間にも制限されず、法則は半分になり、夢の中では、それだけ解放されるわけです。五次元は生命の次元であり、ここまでがアストラル体の来られる所です。六次元はマインド（思考）の次元と言われ、普遍的なマインドと関連を持ちます。生命を越えた天国のような永遠の世界です。七次元はすべての原因がある世界、永遠をさらに越えた純粋な世界です。八次元からは、太陽に属する霊の世界です。そして絶対まで、我々の感覚など、はるかに超越した光の次元が続きます。



聖なる母 クンダリーニ

低次はその反対に、次元が進むたびに自由は減り、重く凝縮した次元になります。我々が、肉体のある時に私えなかったカルマ、汚染物質を浄化するために、それぞれの所に行きます。地球にも、洗淨の場は実在しています。月は死んだ天体と言われていますが、今、月は汚染物質を洗淨する機能だけが働いています。低次の二段階、クンダバファーと言うのは、我々の尾髄骨にあるクンダリーニを上昇させることがなかった場合、それは下降します。それをクンダバファーと言います。八段階のブラックタントラと言うのは、タン（宣伝し）、トラ（救護する）に由来します。タントラとは、真言（マントラ）と護符、神聖幾何学図形（ヤントラ）から成り立っています。これらの知識を悪用すれば、ブラックタントラになります。クンダリーニ、タントラ、マントラなどについては、2号や、ほかの号でも説明がありますので、参考にしてください。また、これからも説明していきたいと思えます。

このように見てくると、進化の目的を持つ我々に、なぜ、エゴが与えられるのかと、疑問に思うことと思えます。それはまるで矛盾しているように思われるかもしれませんが、我々は、内的に魂の進化をめざしている存在です。魂は、完全に神聖な、ポジティブ（+）なものです。ただ、それだけではそこから動くことはできません。上昇も下降もできません。エゴという一の極、+に對するもう一方の對極を与えられることによって、動きを生じさせることができます。そして、2つの極があり、動きがあって初めて、完全な中和へ持って行けるのです。ですから、宇宙に存在するものすべてに二元性があります。このように、我々のエゴ

は、我々に誘惑を与え、問題を与えることによって、我々を鍛え、我々の眠りこけた意識を目覚めさせ、自分のエゴとの闘いへ、進化の道へと我々を促しているのです。ただ平穩無事に生きても、それだけでは進化することはできません。

ノーシスは、進化のために与えられている我々のすべての機能を培い、身につけていく具体的な実技を、だれにでも教えています。文章だけを通しての説明のため、理解しにくいかもしれませんが、随時、お知らせしていきたいと思います。

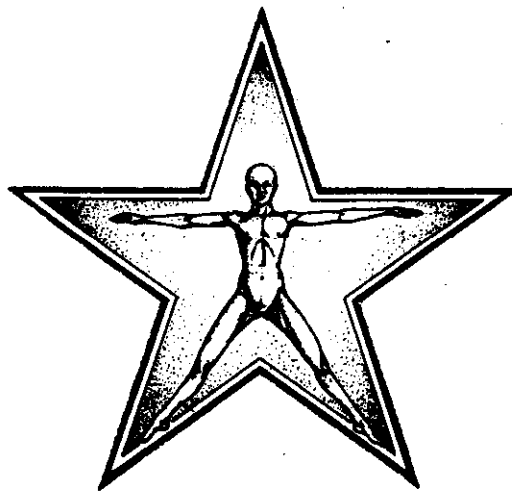
今回は、記憶力の開発と意志力、知性開発のためのマントラ実習です。

### 実習 (プラクティス)

まず、すべての実習を行う前に、体内にある空気を全部、吐き出します。体内にある悪いものを全部、出してしまうつもりで、ハッハッハッと、スタッカートのようにして空気を吐く。そして空気を吸う時は、常に太陽エネルギーを体中に吸収するように、意識を持って行い、機械的にならないこと。

#### ☆記憶力開発のマントラ RAOM GAOM

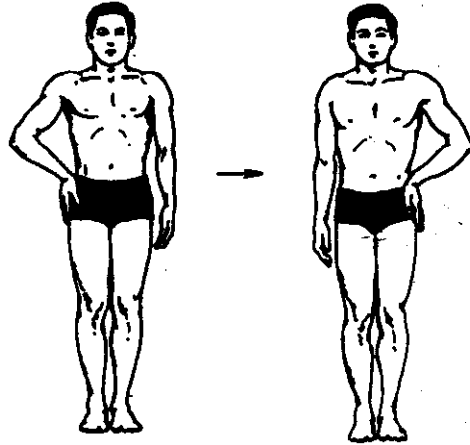
呼吸はなるべく深くゆっくり行い、上記のマントラを1日、10分位、好きな時に行う。RA(ル…ラ…)は、初めは巻き舌でル…と発音してからラーと続ける。このRAは後頭部に共鳴し、舌先の上あごが刺激され胸腺にも影響する。O(オー)はハートに、M(ム…)は、口を閉じた形で発音するが、性ホルモンに、A(アー)は肺に共鳴する。我々の潜在している記憶を呼び起こし、新たな記憶力をも高める。また、このマントラは、夢を思い出すためにも役立つ。朝、眠りが覚め始めたら、なにの夢を見たか、思い出すように務め、マントラを発音する。この時は完全に起きてしまわないように、体をあまり動かさないこと。もし周囲に迷惑がかかるなら、声を出さずに心の中で発音する。ついでに、夢を明確に見るためには、夜、寝る時に、 $\text{SA FA NA}$  とくり返しながら眠りにつく。また睡眠中に、なにかに追いかけられるとか、恐い夢を見ている時は、逃げずに“ペンタグラム!”と言って、全身で星の形を作る。このペンタグラムは、ピタゴラスが数学的に多くのことを考えて描いたもので、大変なパワーがある。また、“テトラグラマトン”と言っても良い。あるいは、恐い動物には、右手の小指と薬指を曲げ、残りの3本指をピストルのように伸ばし、動物に向かってS(スー)と拒絶のエネルギーを発する。そうすればすぐに消えてしまう。いろいろな次元に行けるアストラル体の時には(夢の中では)、それだけ防御しなければならない。我々がアストラル



体でいる時は、意志の力だけが頼りになる。なお、S(スー)の発音は、歯をかみあわせたような形で息を吐き出した時の音、息がもれる音である。また、実生活で犬が向かって来たりした時などにも、この3本指は使える。この時はS(スー)でも、パスー、パスーと本当のピストルのようにやっても良い。

★意志力の強化と開発  $\text{PA TE TE TO TO}$

いつでも良いが、朝などに太陽(東)に向かい、太陽と心を通じ合わせるような気持で、両足のかかとをつけて立つ。両手は自然に下げておく。胸一杯、息を吸い、右手を体の側面をなでながら腰の所まで持ってきて、ターと発音する。次に息を吸いながら、右手は下げ左手は前と同様、腰に持ってきて、テーと発音する。つまり、両手を交互に腰に持ってきて発音する。手の指先は床の方を向き、親指だけは離し体の前面の方へ向ける。この、タ、テ、ティ、ト、トゥを10分くらいやる。



★知性開発  $\text{AOM A RA BUT SA MA DHI DHI DHI}$

これも好きな時間に10分位。自分の脳に意識を集中し、天上からの光で満たされるようにイメージを描く。 $\text{AOM}$ はアーメンと同様、三位一体のこと。アーオーと言い、オの口の形のままウーと発音し、ムーで終わる。 $\text{BUT}$ は我々の意識に、 $\text{SA}$ のスーは蛇の音、火の音であり性ホルモンと共振する。 $\text{DHI}$ のイーは胸腺を共振させ血液に至る。サマディーとは悟りということである。ムーは、記憶力のマントラと同様に行う。

大変わかりにくく、実践しにくいかもしれませんが、大変多くの、お伝えしたい実習(プラクティス)があるのですが…、具体的に詳しくお知りになりたい方は御連絡ください。テープや資料など、できるだけのことをお願いしております。実践を通して、興味深い変化と実感を感じられると思います。実習(プラクティス)は、さらに努力して、わかりやすい説明でとりあげていきたいと思っております。

